二〇二一年六月二六日

著莪の花貴船へつづく峠道　よし子
水馬雲居を闊歩するごとし　かかし
幼子に負けぬ日焼や古希の夫　なつき
廟所訪ふ木戸の一歩に陰涼し　なつき
青葉潮遠眼差しに龍馬像　凡士
病棟は青葉の海に沈むごと　せいじ
潮の香を乗せてテラスの風涼し　わかば
転がして値札確かむ真桑瓜　よう子
乙訓の水に育ちし白牡丹　よし子
外湯まで樹間の道や青時雨　素秀
北嶺を遥かに望む窓涼し　せいじ
大広間向日葵高く活けにけり　むべ
明易や外へ出せとぞ猫パンチ　こすもす

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年六月二七日